

B-1 単元計画

1. 単元の学習計画（総時数15時間）

	主な学習活動	主な支援	評価規準
第一次 (6時間)	<p>「森へ」を読んで“森”のイメージを膨らませよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本の紹介をする（聞く） 範読を聞く。 初読の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールとして全員が1組の友人に本の紹介をすることを伝える。 これまでの経験などをもとに、「森」についてのイメージを膨らませることで、教材文への興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や今まで読んだ本などを思い出して、「森」についての豊かなイメージを持つ。 (関・意・態)
	<p>感想や読み深めたいところについて話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初読の感想を発表し合う。 読み深めたい場面を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の表現の工夫に着目できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の書いた、植物や生き物が住む森に興味をもち、感想を発表している。 (読む エ)
	<p>いろいろな感覚を働かせて「森へ」を読み、表現の工夫や筆者の思いを読み取ろう。(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文全体を読み、写真や筆者の行動を中心にした5つのまとまりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 5つのまとまりを見出せない児童には、場面の移り変わりを筆者の行動を中心に横断的にとらえさせることで、全体の流れをつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりを、筆者の行動を中心に横断的にとらえることで、全体の流れをつかむ。 (読む エ)
	<p>①「アラスカの世界の紹介」と②「入り江の奥でのザトウクジラとの出会い」を読み、視覚・聴覚・嗅覚・触覚や、比喩の表現、擬声語などについて理解する。</p> <p>③「森の中へ—植物の生きる力とクマに対する筆者の心の動き」を読み、森の様子についての効果的な表現を探して味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表現の工夫点に気づけない児童には、比喩の表現、擬声語などを分類してまとめられるようにする。 今までのまとまりの中での生と死の関係を振り返り、関連に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 五感を使った表現や、比喩、擬声語の表現方法を知り、それに気付く。 (言語 (1) イ (ケ)) 筆者の視点に立った森の様子を、表現方法の工夫に着目して読み取っている。 (読む カ)
	<p>④「森の川—サケとクマの世界」を読み、森の自然や生き物の様子について効果的な表現を探して味わう。</p> <p>⑤「巨木の物語」を読み、生と死の表現を今までのまとまりとつなげて読みとる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 筆者の視点に立ったクマの様子や、それに驚く筆者の表現方法の工夫に着目して読み取っている。 (読む カ) 倒木と新しい木々の関係について文全体と関連させて読み、森の命のつながりについて考えている。 (読む エ)

<ul style="list-style-type: none"> ・「森へ」のテーマについてグループで交流し、理解を深める。 	<p>テーマについて自分の考えを持ってない児童には、ワークシートをもとに筆者の心の動きについて想起させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「森へ」に込められた筆者の思いやこの作品のテーマについて自分の考えを持ち、グループで話し合い互いの考えを深める。 <p>(読む エ)</p>
<p>本の紹介文を書くためのコツをつかもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの紹介文を比較し、読み手がひきつけられるような表現の工夫について考える。 ・紹介したい本のキャッチコピーについて考える。 <本時> 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時までに紹介したい本を決めておく。 ・どちらが良いかと言う視点ではなく、双方の長所や短所について比較できるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの紹介文を比較し、それぞれの長所や短所について考えている。 <p>(読む カ)</p>
<p>読書発表会に向けて紹介文をつくろう。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介の仕方を決める。 ・表現方法を工夫しながら紹介文を書く。 ・発表の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法の工夫が苦手な児童には、ワークシートを使って、比喻、擬人法などの工夫のポイントについて想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法を工夫しながら本の紹介文を書いている。 <p>(書く オ)</p>
<p>中間発表をして、紹介の仕方や表現方法を見直そう。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表をして、お互いにアドバイスし合おう。 ・図書館司書の先生にも聞いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書の先生にも聞いていただきアドバイスをもらい、今後の活動に活かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介の仕方、表現方法などを工夫しながら発表する。 ・発表を通して、表現方法の工夫に着目してアドバイスをしよう。(書く カ)
<p>アドバイスを活かして、紹介文を完成させよう。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表を通して気付いたことやアドバイスされたことを、自分の文章表現や発表の仕方などに活かして紹介文を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気付きや他からのアドバイスを生かせない児童には、友人がどのように見直しているのかを参考にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法を工夫したり、中間発表で得たアドバイスを活かしたりしながら本の紹介文を書いている。 <p>(書く オ)</p>
<p>読書発表会を開こう。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書発表会を通して、自分が薦めたい本の魅力を、紹介の仕方や表現方法を工夫して伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法を工夫したところや、特に強調したい部分を意識して発表するよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介の仕方、表現方法などを工夫しながら発表する。 ・紹介文を読んで読書への意欲を持つようとする。 <p>(関・意・態)</p>

第二次(9時間)

